

日経クロステックNEXT東京2026 連動

E2E自動運転サミット (仮)

ver.3.1



1

E2E自動運転サミット 企画概要



E2E自動運転サミット 企画主旨

監視不要の「レベル4」自動運転を自家用車で実現する道筋が見えてきた。人々の生活や街、公共交通など社会のありようを一変する可能性がある。

原動力となるのが、周囲の認識から走行判断までAI（人工知能）に担わせる**End-to-End（E2E）自動運転技術**だ。世界的に開発が加速して3年ほどになるが、人の監視が必要ではあるもののすでに市街地を手放して走れる水準に早くも達している。数年内に自家用車のレベル4を目指す動きも広がる。これまでの人が考えた走行ルールを基にした技術は走行範囲が限られていた。

世界の競争を見ると、米テスラが先行し中国勢が猛追する。日本勢は出遅れていたが、徐々に巻き返しに動き始めた。どうすればE2E自動運転の世界競争で日本が先頭に立てるのか。日系自動車メーカーや部品メーカーだけでなく、ITやソフトベンダーやインフラ事業者、官庁、自治体を巻き込んだ総力戦が必要になる。日経クロステック／日経AutomotiveではE2E自動運転の最前線を見通すサミットを開催する。

E2E自動運転サミット 企画概要

開催概要

日本がE2E自動運転で先行するには産官学の総力戦が鍵となる。
日経クロステック／日経Automotiveは、その最前線を展望するサミットを開催する。

イベント名：E2E自動運転サミット

開催枠：日経BP最大のテクノロジーの祭典「日経クロステックNEXT 東京」連携したイベント

- 日時：2026年9月29日(火) 10:00-17:30 (仮)
- 開催場所：東京国際フォーラム ホールB7 予定
- 主催：日経クロステック、日経Automotive
- 想定来者場数：250人 アーカイブオンライン配信400人
※10,000人（同時開催の日経クロステックNEXT 東京を含む場合）

さらに

**東京国際フォーラム周辺での
E2E自動運転車両の公道走行予定**
・Turing株式会社様ご相談中



午前

非公開
ラウンドテーブル

「日本がE2E自動運転で巻き返すには」 (仮)

OEM、AI、サプライヤー、政策、金融など多様なプレイヤーが一堂に会し、「日本がE2E自動運転で巻き返すための条件」を議論します。非公開形式ならではの率直な意見交換を通じ、技術・産業・政策の観点から実効性ある打ち手を探ります。

お昼：ランチネットワーキング（登壇者/協賛社などの関係者のみ）

午後

公開
シンポジウム

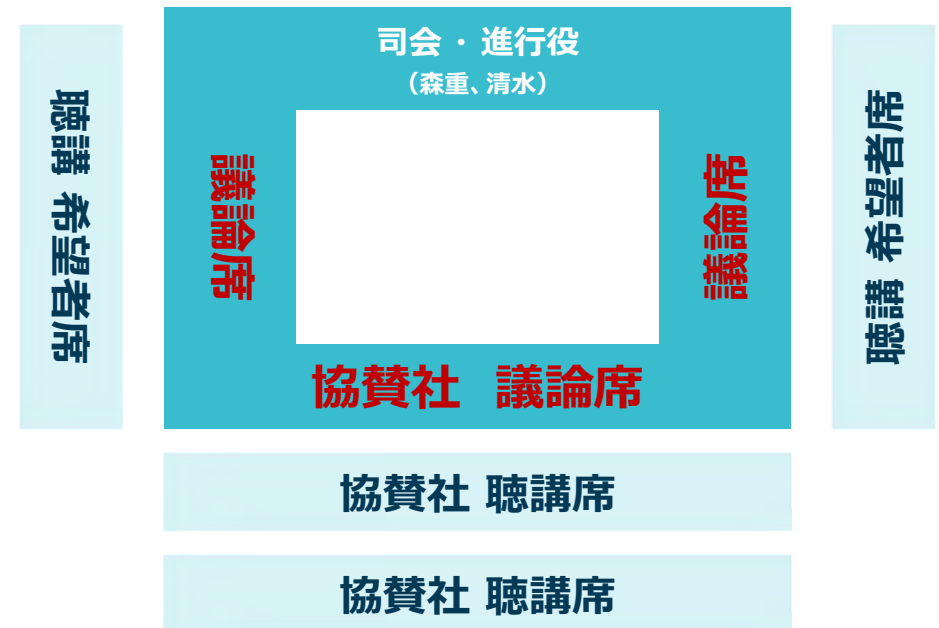
「E2E自動運転 最前線」 (仮)

本シンポジウムでは、E2E自動運転の最前線で活躍する企業や研究者が集まり、最新技術の動向と課題をわかりやすく解説します。あわせて、中国・米国の動向も踏まえながら、日本の今後の方向性と可能性を展望します。

非公開 ラウンドテーブル案

- 時間 議論 10:00～12:00
- 大テーマ 「日本がE2E自動運転で巻き返すには」
- 登壇構成(予定)
 - 【OEM】国産自動車メーカー
 - 【AIモデル】チューリング、NVIDIA、など
 - 【サプライヤー】デンソー、ポッシュ、など
 - 【自動運転サービス】
 - 【政策】政府戦略17分野・自動運転担当
 - 【中国・米国動向】有識者
 - 【金融】三菱UFJ銀行、など
- 司会・進行
 - ・ 森重 和春 常務執行役員 技術メディア担当
 - ・ 清水 直茂 日経Automotive編集長

■ ラウンドテーブル 会場レイアウト案



ランチネットワーキング



「E2E自動運転サミット」開催当日に
当日の登壇者・関係者に参加者を限定したランチレセプションを開催します
リラックスした雰囲気の中で交流し、新たなネットワークを構築いただきます。

※画像は全てイメージです

- 日程 2026年9月29日 E2E自動運転サミット 当日
- 時間 12:00頃～13:00頃（午前の前半パートと、午後の後半パートの間の時間帯で開催）
- 形式 立食形式のカジュアルなランチレセプションを予定しています。
参加者は当日の登壇者・関係者など30名程度を想定
- 内容 ラウンドテーブルで議論されたテーマについて、レセプションを通じて
参加者同士で共有いただいたり、今後のビジネスに向けて交流いただきます。





シンポジウムにより、最前線の知見を集結し、産官の垣根を越えた議論を通じて、日本が次の一歩を踏み出すための指針を示します。

※画像は全てイメージです

「E2E自動運転最前線」 (仮)

- 日程 2026年9月29日
- 時間 13:00~17:00 (予定)
- 聴講者 会場 (リアル) : 250名程度 (想定)
オンライン (アーカイブ含む) : 400名程度 (想定)

- 登壇候補案
NVIDIA オープンソースE2Eモデル「アルパマヨ」の衝撃
チューリング E2E自動運転の最先端VLAの可能性と公道走行の課題
日産自動車 E2E自動運転技術を2027年度に量産、その進捗
デンソー サプライヤーのチャンスはどこに
ポッシュ サプライヤーの役割は
高田先生 E2E自動運転×SDVの未来
デロイト周氏 中国・米国E2E自動運転の実像
三菱UFJ銀行 金融機関として関連産業の支援を含めたエコシステム構築の貢献
中部大・藤吉先生 E2E自動運転モデル研究の最前線
など



シンポジウム会場イメージ

国際フォーラム ホールB5



ホワイエ



※昨年のRobotics NEXT Tokyoの開催の様子です。
会場レイアウト、来場者動線等はイメージで変更される場合があります。

展示スペース（ホワイエ）イメージ



u g o



デロイト トマト コンサルティング



PwC コンサルティング



FastLabel



ブリヂストン

Robotics NEXT Tokyo実施例)
協賛5社は講演に加え会場を囲むホワイエでロボットやソリューションを展示した。
熱心に質問する参加者から、AI・ロボティクスへの関心の高さがうかがえた。

想定来場者（想定）

来場想定者（ターゲット）

モビリティ×物流×ロボットの自動運転を担うプレイヤー

■ 自動運転を「つくる人」（技術）

自動運転／E2Eモデル開発（AI・MLOps・シミュレーション）
車載ソフト／SDV／半導体／通信インフラ
ロボティクス／ヒューマノイド開発

■ 自動運転を「使う・回す人」（現場・事業）

交通事業者（タクシー／バス／MaaS）
物流事業者（輸送・倉庫・ラストマイル）
製造・現場（工場／施設の自動化担当）
運行・遠隔監視などのオペレーション担当

■ 自動運転を「推進する人」（意思決定）

自治体／政策（スマートシティ・交通政策）
金融機関／投資家（銀行・VC等）
経営層／新規事業／DX責任者



E2E自動運転イノベーション白書 2026（仮）冊子 概要



E2E自動運転の今と未来、グローバル状況などを、日経BPの記事+協賛社PRスペースで集約し、「E2E自動運転イノベーション白書2026（仮）」として冊子化します（冊子は会場で配布予定）。
※協賛者スペースは、素材（テキストや写真）をご提供いただき、日経BPが制作致します。



■ 特別冊子

- 配布時期 2026年9月29日 会場にて
- 体裁 カラー20P（想定）
- サイズ A4またはB5

■ 日経クロステック 特設サイト転載

- 掲載時期 2026年10月以降
- 体裁 電子版スペシャル

● 特別冊子 体裁（イメージ）



表4 表1



P.1 P.2



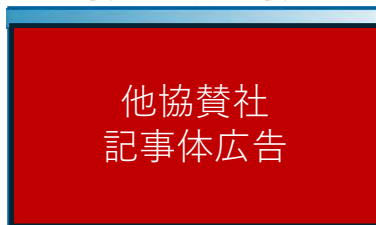
P.3 P.4



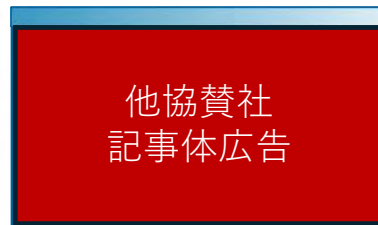
P.5 P.6



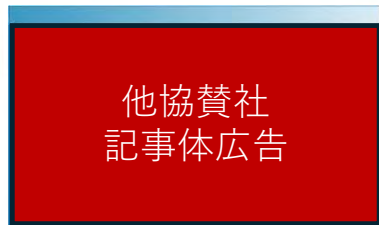
P.7 P.8



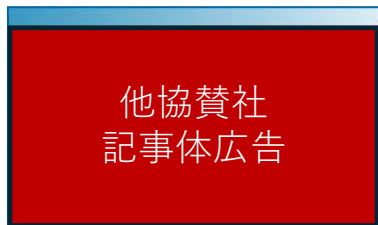
P.9 P.10



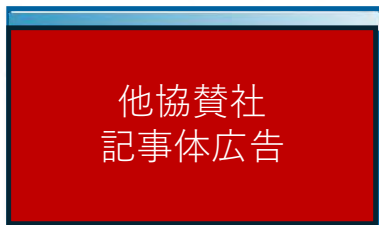
P.11 P.12



P.13 P.14



P.15 P.16



P.17 P.18

2

E2E自動運転サミット 協賛メニュー



協賛メニュー

	サービス内容	プラチナ 500万（税抜）	ゴールド 300万（税抜）
シンポジウム	講演枠	● (単独登壇20分)	▲ (パネルディスカッション 登壇)
	ホワイエでの展示スペース	▲ ※いずれか1つ選択	●
	クロステックNEXT会場内の「ブース1コマ提供」	▲ ※いずれか1つ選択	-
	イベントアーカイブ動画配信あり	●	●
ラウンド テーブル	ラウンドテーブル 参加権利	● 議論席1名 聴講席2名	▲ 聴講席2名
ランチネット ワーキング	ランチネットワーキング 参加権利	●	●
集客	事前登録者リスト提供（リアル+アーカイブ）	400件	250件
情報発信	イベント採録記事 日経クロステック+日経ビジネス電 子版スペシャル ※イベント全体の採録内に含まれます	●	●
	E2E自動運転イノベーション白書 2026（仮）冊子	▲ ※いずれか1つ選択 掲載あり 2P	-

スケジュール予定

協賛申込締切..... 2026年7月中旬予定

事前登録開始..... 2026年8月中旬予定

イベント開催日.....2026年9月29日（火）



【お問い合わせ先】
日経BP ソリューションビジネス企画部

sbk@nikkeibp.co.jp